



学長メッセージ

鹿屋体育大学は、国立大学唯一の体育系単科大学として、昭和56年10月1日に開学しました。我が国のスポーツ、武道、体育及び健康づくりの分野における教育と研究の発展に貢献することを使命とし、西暦2050年をターゲットイヤーとする長期ビジョン「NIFS NEXT30」を策定しています。この長期ビジョンのもと、スポーツ、武道、体育、健康づくりの各分野において、中核的かつリーダー的役割を担う人材「A.C.E.KANOYA【活気ある(Active)・独創的な(Creative)・精鋭(Elites)】」の育成を目指し、「スポーツで未来を拓く自分を創る」をスローガンに、全学を挙げて学生の主体的な学びと挑戦を支援しています。

スポーツ基本法にも示されているように、近年、スポーツに対する関わり方は「する」だけでなく、「みる」「ささえる」「集まる」「つながる」といった多様な形へと広がりを見せています。そのような変化を踏まえ、本学では令和9年度入学生より、教育内容および入学者選抜において新たな制度を導入します。

まず、スポーツ総合課程では、スポーツを「ささえる」という視点から新たな価値を創出できる人材の育成強化に資する教育プログラムを設置します。一方、武道課程においては、我が国の伝統である武道教育を継承・発展させ、より質の高い教

育を推進し、国際的に武道文化や武道精神を伝播することができる人材を育成します。

また、教育課程の改定に伴い、スポーツ総合課程の入学者選抜において、「スポーツをささえる」ことで未来を切り拓く意欲や能力を重視した新たな総合型選抜を創設するとともに、一般選抜では従来の選抜方法に加え、学力をより重視した選抜方式を導入します。

大学でのスポーツ活動や学修の過程では、身体的・心理的な課題に直面しながら、試行錯誤を重ねて課題解決に取り組むことが求められます。それらは課題の背景を論理的に考察し、自ら問を立て、実践を通して解決策を探究する力を養う良い機会であり、それら一連のプロセスを真摯に取り組むことで、経験知に加え「スポーツをささえる人材」に必須のエビデンスに基づいた指導や普及を担うための資質と実践力が培われます。本学は、それを可能にするカリキュラム及び充実した指導体制や教育・研究環境を備えています。

蒼天の下、大隅鹿屋の豊かな自然環境に囲まれたキャンパスで、自らの可能性を切り拓き、未来を創造する学びに挑戦してみませんか。

鹿屋体育大学長 **金久 博昭**

- 昭和56年10月1日 - 鹿屋体育大学設置
- 昭和59年4月1日 - 学生受入れ
- 昭和60年4月1日 - 外国語教育センター設置
- 昭和62年4月1日 - 海洋スポーツセンター設置
- 昭和63年4月1日 - 大学院体育学研究科体育学専攻(修士課程)設置
- 昭和63年5月25日 - 保健管理センター設置
- 平成5年10月1日 - 開講10周年記念式典挙行(開学12周年、学生受入れ後10回目の開学記念日)
- 平成6年5月20日 - スポーツトレーニング教育研究センター設置
- 平成10年12月1日 - スポーツ情報センター設置
- 平成13年4月1日 - 生涯スポーツ実践センター設置
- 平成13年9月30日 - 開学20周年記念式典挙行
- 平成15年4月1日 - アドミッションセンター設置
- 平成15年4月1日 - 3学期制から2学期制へ移行
学部の7講座制から3系制に移行
- 平成16年4月1日 - 国立大学法人鹿屋体育大学設立
大学院体育学研究科体育学専攻(博士後期課程)設置
- 平成18年4月1日 - 体育・スポーツ課程をスポーツ総合課程に名称変更
- 平成19年4月1日 - 大学院体育学研究科(博士後期課程)の定員2名増
- 平成20年4月1日 - 体育学部第3次編入学の定員10名増
- 平成21年8月1日 - 東京サテライトキャンパス開設
- 平成23年4月1日 - 外国語教育センターを国際交流センターに名称変更
- 平成23年9月24日 - 開学30周年記念式典挙行
- 平成27年3月 - スポーツパフォーマンス研究棟竣工
- 平成28年4月1日 - 筑波大学との共同専攻設置
 - ・スポーツ国際開発学共同専攻(修士課程)
 - ・大学体育スポーツ高度化共同専攻(3年制博士課程)
- 平成30年4月1日 - スポーツパフォーマンス研究センター設置
- 令和3年6月1日 - キャリア形成支援センター設置
- 令和3年9月25日 - 開学40周年記念式典挙行
- 令和3年12月31日 - 東京サテライトキャンパス廃止
- 令和4年10月 - 鹿屋体育大学ビジョン「NIFS NEXT30」策定
- 令和5年1月1日 - スポーツインノベーション推進機構設置
- 令和5年3月31日 - 3つのセンターの機能を推進機構の3部門へ移管
 - ・スポーツトレーニング教育研究センター→[スポーツサイエンス部門]
 - ・スポーツパフォーマンス研究センター→[スポーツパフォーマンス・コーチング部門]
 - ・生涯スポーツ実践センター→[ヘルス・スポーツプロモーション部門]
- 令和5年4月1日 - ネーミングライツ契約により、スポーツパフォーマンス研究センターを「SPORTECスポーツパフォーマンス研究センター」に命名
- 令和8年4月1日 - ネーミングライツ契約により、野球場を「平成エネルギーパーク」に命名

目指せ！ 「鹿屋スポーツ実施率 日本一共同宣言」

令和7年1月、鹿屋体育大学は鹿屋市と「鹿屋スポーツ実施率日本一共同宣言」を行いました。この共同宣言では、本学と鹿屋市が連携して事業を推進し、スポーツの輪を市民へと広げることを目的としており、成人が週1回以上スポーツを実施する割合で日本一を目指します。

また、「する」「みる」「ささえる」「あつまる」「つながる」スポーツの推進を通して、スポーツを行うだけでなく、スポーツに関わる人口を増やし、健康で活力ある社会の実現に向けた取り組みを推進していきます。

スポーツ実施率日本一共同宣言

- ① スポーツ習慣化の確立
- ② スポーツ観戦機会の提供
- ③ スポーツ環境づくりの強化
- ④ スポーツによる交流の推進
- ⑤ スポーツに対する意識の向上



地域貢献・ 社会貢献



本学では、大学のもつ人的・知的資源、施設・設備等を生かし、様々な地域貢献・社会連携等の取組を行っています。学生が主体的に関わるものも多く、貴重な学びの場にもなっています。

また、大学スポーツの振興を通じた地域活性化を推進するため、鹿屋市と鹿屋体育大学が連携して創設した地域密着型スポーツブランド「Blue Winds」の取組として、大学スポーツの観戦・応援イベント「カレッジスポーツデー」や、「スポーツをカタルガ(語る)スポーツ人材育成プロジェクト」などを実施しています。

